サニタリ用圧力電力伝送器

取扱説明書

DSN－□－□－□－□－□－S－□

型番　DSH－□－□－□－□－□－S－□

このたびは、サニタリ用圧力伝送器をお買い上げいただきありがとうございます。
正しくご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
また、製品は日々改良されておりますので現品に付属された取扱説明書で
操作を行ってください。なお、本取扱説明書は大切に保管してください。

日本工業規格表示許可工場

株式会社 第一計器製作所

http://www.daiichikeiki.co.jp

本社 工場 〒660-0823 尼崎市大物町1丁目7番-2号
TEL. 06(6481)5551(代)　FAX. 06(6401)4646

東京営業所 〒140-0013 東京都品川区南大井6-7-9
大森FNビル1階
TEL. 03(3768)6761(代)　FAX. 03(3768)6663

❏ 1. 使用上のご注意

●圧力伝送器の取り付けについて

配管への接続時、締め付けにより多少ゼロがずれる場合がありますので圧力がゼロの状態で表示値を確認しゼロ調整してご使用ください。
(図1. に示す製品記号の位置で締め付けると締め付けによるゼロずれはほとんどありません。)
また、経年変化等によりずれる場合もありますので1年毎に定期点検、ゼロ調整してのご使用をおすすめいたします。
ヘルール継手中心部の凹んだ部分が圧力を検出するダイアフラムになっています。
通常の隔膜式の圧力計と比較するとダイアフラムは厚くて破損し難しくなっていますが局部的に力が加わるとオーバーロードになり破損する場合がありますので取扱いには十分ご注意ください。

●ノイズ

測定値が時々変動したり、異なる値を示すなど数値が一定しない場合は、
ノイズの影響が思われますので、ノイズの発生源を調べ断ちきる必要があります。
主な方法としましては、供給電源にノイズが乗っている場合は別の電源に交換したり、
その電源にノイズフィルターを入れる方法などが有効的です。
また、外部からの誘導ノイズによりセンサ取り付け部からノイズが乗ってくることもありますので、
センサ取り付け部はノイズ源から遠ざけることが必要です。
また、本ケーブルと動力線と束ねたり、同じコンジット管に入れないでください。

●大気開放チューブについて

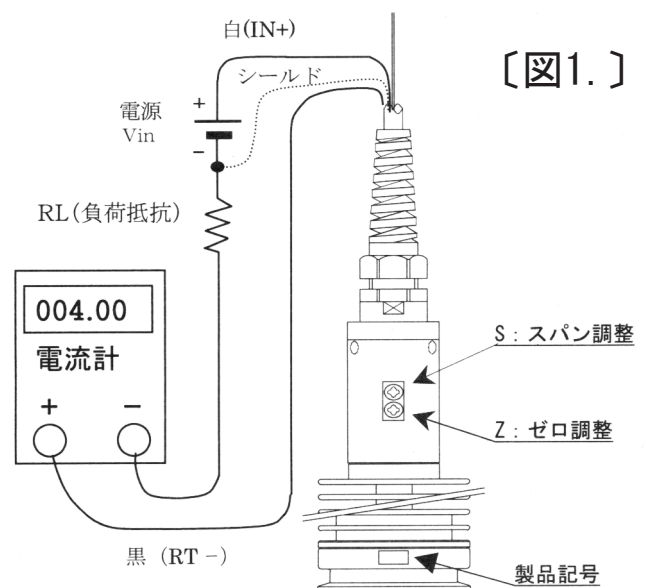
大気開放用チューブは塞がないように配置してください。チューブが塞がるとゼロ基準値が変化し、ゼロ出力が不安定になります。

❏ 2. ゼロ調整用ボリュームの使用方法

1. 電源投入後3分以上(15～20分)のエージングを行った後実施してください。

2. ゼロ圧力をかけている上体で〔図1.〕に示すように電流計を接続し、その値が4.00mAになるようにゼロ調整ねじを取り外し、時計用マイナスドライバーで内部調整ボリュームを調整します。

※ 注意 : スパン調整用ボリュームは、圧力校正用の調整ボリュームですので絶対に触らないでください。

〔図1.〕

❏ 3. 電源電圧と負荷抵抗について

● 本製品は、電源電圧の値により負荷抵抗範囲が変わります。
下記の計算式の範囲内でご使用になれます。
RL(負荷抵抗)＜50×Vin(電源電圧)-400

● 出荷時の校正条件は、24V仕様の時は500Ωです。
また12V仕様の時は150Ωで行っています。